

安全・安心

ミッション

災害対策や確実な技能伝承を通じ、公共交通の使命である「安全・安心」を確保する。

重点施策



安全方針

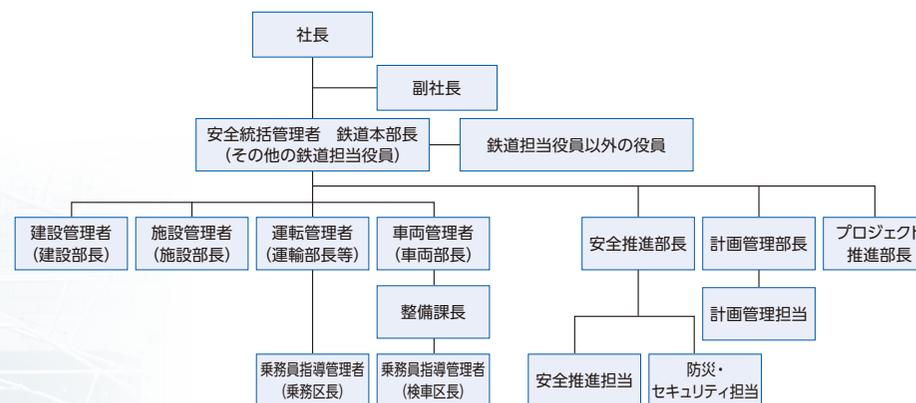
「京成グループ経営理念」・「京成グループ行動指針」

安全目標

一人ひとりの自分事化による安全管理体制の強靱化

安全管理体制

当社では、2006年10月に「安全管理規程」を制定し、社長をトップとする安全管理体制を構築しています。自然災害の頻発化・激甚化やテロ・傷害事件発生リスクの顕在化等に的確に対応するため、2022年7月から安全推進部に新たに「防災・セキュリティ担当」を設置し、組織力の強化を図っています。

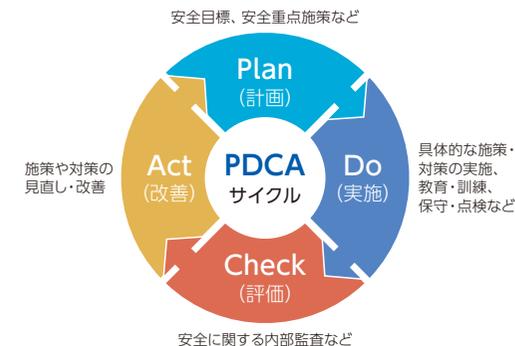


その他具体的な管理担当者の役割、安全管理方法などについては、「安全報告書2025」をご覧ください。

[WEB](https://www.keisei.co.jp/keisei/ir/csr/dl/safety/2025.pdf) <https://www.keisei.co.jp/keisei/ir/csr/dl/safety/2025.pdf>

▶ 安全管理の方法

安全方針及び安全目標のもと、輸送の安全を確実に確保・向上させるため、安全統括管理者を中心にPDCAサイクルにより安全管理体制を強化するよう取り組んでいます。特にCheckとActに力点を置いて取り組むことで、安全管理体制のスパイラルアップを図っています。



安全・安心

具体的な取り組み

2024年度は、中期経営計画「D1プラン(2022~2024年度)」最終年度であり、長期経営課題の根幹と位置付けている「安全・安心」を踏まえ、本計画の重点施策である「災害対策の強化」「お客様の安全を守る取り組みの強化」及び「テクノロジーの活用」に基づき、安全方針・安全目標・安全重点施策を定め、安全性向上の取り組みを推進しました。

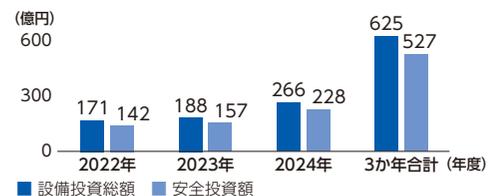
安全重点施策

- ① 異常時対応力の強化に向けた訓練の実施
- ② 一人ひとりの安全意識の向上・確実な業務知識継承に向けた教育の実施
- ③ ハード面(鉄道施設・車両)の安全性向上及びソフト面(規程・マニュアル・システム・対策等)のレベルアップ
- ④ ヒヤリハット情報等のデータの有効活用及び部門の垣根を超えた情報・連絡の連携強化
- ⑤ ICT機器や新技術活用による安全性の向上・技術継承に向けた取り組みの推進

▶ 安全対策への投資

2024年度は、お客様により安全・安心にご利用いただけるよう、法面補強工事・耐震補強工事等の安全対策の強化、駅施設のリニューアルやバリアフリー化などのサービス向上に取り組みました。

鉄道事業設備投資総額・安全投資額
(当社+新京成電鉄合算値)



ワンマン運転における安全対策

2025年3月に、ワンマン運転を行う京成金町線において、ホームセンサーを導入しました。これは列車発車時、お客様が警告ラインから列車側に出ると、ホーム上家に設置されたセンサーが危険を検知し、運転士に知らせるものです。センサーへの注意とホームの安全を守るためのお客様へのお願いを、案内板で行っています。



■ 災害対策の強化

当社では、鉄道における安全・安定輸送の確保のため、高架橋・橋脚・駅舎の耐震補強工事や、集中豪雨などにより法面(線路脇斜面)の土砂が流出することを防ぐための補強工事を実施しました。

法面補強工事

鉄道線路の盛土部、掘割部の線路脇には法面と呼ばれる斜面が設けられます。大雨等によって、この法面が崩れる土砂災害を防止するため、コンクリートフレーム等を使用した補強工事を順次進めています。



耐震補強工事

2011年に発生した東日本大震災を踏まえ、高架橋以外にも橋脚、トンネル中柱、駅などの構造物の耐震補強工事を順次実施し、地震に対する安全性の向上に努めています。



京成本線荒川橋梁架替工事

京成本線荒川橋梁付近の堤防は広域地盤沈下の影響で、周辺堤防より低い状態にあり、荒川増水時には橋梁部分から水が溢れて堤防が決壊する恐れがあることから、堤防をかさ上げするための橋梁架替工事を推進しています。2024年度は、主に新設橋梁の基礎杭工事に着手したほか、既設盛土の土留工事等を実施しました。



安全・安心

お客様の安全を守る取り組みの強化

当社では、鉄道を利用するお客様の安全を守るための取り組みとして、施設、車両設備、災害発生時の社内連絡体制など、多面的に取り組みを強化しています。

鉄道

押上線葛飾区内連続立体交差事業

葛飾区内(四ツ木駅～青砥駅間)の連続立体交差事業を推進しています。この事業が完了すると平和橋通りなどの沿線にある11か所の踏切が廃止され、道路・鉄道それぞれの安全性が一層向上するほか、踏切による交通渋滞解消が期待されます。2024年11月には、仮下り線への線路切替工事を実施しました。



安全意識の定着に向けた教育訓練の充実

京成グループ社員を対象とした安全啓発施設である「安全共創室」を設置し、順次研修を実施しています。安全共創室は、「鉄道の安全は人が創るものであり、全社員が一丸となって京成グループの安全を創りあげていくという意識を共有する」目的で作られた施設であり、研修を通して社員一人ひとりの安全意識を醸成しています。

ヒヤリハットの活用

事故を起こすおそれがあり、ヒヤリとした、事故につながる要因に気づいてハットした、といった事例は「ヒヤリハット報告」として、全てシステムに登録を行い情報共有し、作業マニュアルや設備改善に活用しています。また、リスク見積もりを行い、高リスクな事象のヒヤリハットについては、対策後も追跡調査してリスク低減を確認しています。

安全推進発表会

現場における輸送の安全確保に関わる活動の積み上げによるポトムアップと部門間の情報共有を強化することを目的に、グループ会社も含めた安全推進発表会を毎年度実施しています。



2025年2月には、車両部電機職場が、戸閉電磁弁からの漏気により扉の開閉ができない事象

に対する、治具の継続的な改善とマニュアル作成による漏気対策が評価を受け、安全推進優秀賞を受賞しました。

京成グループ技術発表会

京成グループ4社(当社・新京成電鉄・北総鉄道・京成電設工業)では、各社間の技術交流を目的とした京成グループ技術発表会を実施しています。実技による作業内容を発表し、相互に評価することで、技術力向上と連携強化を図っています。2024年度においては、架線断線に対する復旧訓練を実施しました。



盲導犬ユーザー等対応講習

当社では、2017年度から視覚に障がいのあるお客様に安心して当社の駅をご利用いただけるよう、誘導案内の強化と接客能力向上及び盲導犬普及活動を目的として「盲導犬ユーザー等対応講習」を実施しています。

2024年6月には、新京成電鉄、北総鉄道、関東鉄道の社員も参加し、盲導犬や視覚障がいのある方に関わる法律や駅のご案内方法についての講習を受けた後、実際に船橋競馬場駅で、盲導犬をお連れのお客様や、白杖を要するお客様を誘導するための実技訓練等を行いました。



従業員の声

安全推進優秀賞 車両部 電機職場

私たちは「車両故障に対する対策と工夫」のテーマで、戸閉電磁弁について発表を行いました。戸閉電磁弁は、お客様が乗り降りする扉の開閉を制御する部品の一部で、整備の方法に苦慮していました。戸閉電磁弁の漏気の原因となる電磁弁内のストローク調整を容易にするため、みんなで知恵を出し合い、測定用の治具を作製することで漏気を無くすることができました。測定治具の構造はアルミ板に数ミリの切り欠きがあるだけの単純な構造ですが、このシンプルな治具がいかに安全輸送に貢献しているのかをお伝えしました。この技術が途絶えないように継承し、安全輸送を守るために努めていきます。



車両部 電機職場
杉江 峻超

安全・安心

グループ

異常時対応訓練

京成グループでは万一の不測の事態に備えた各種訓練を行っています。運輸業各社では、「異常時総合訓練」や「バスジャック対応訓練」等を実施しています。社内外の関係者への連絡通報、お客様の誘導案内、事故現場の復旧作業や気象災害への対応などを各部門が協力し定期的に訓練しています。



バスジャック対応訓練

運輸業におけるその他の取り組み

京成グループでは全国の交通事業者と共に、「声かけ・サポート」運動や「こども110番の駅」等を実施し、全てのお客様に安全・安心、そして快適にご利用いただける環境の整備に努めています。また、京成バスなどのバス事業では「バスドライバー異常時対応システム」搭載車両を導入し、安全性の更なる向上を図っています。



バスドライバー異常時対応システム

セーフティドライブ・コンテストで、上位達成事業者へ選出

2024年10月～2025年3月の6カ月にわたり、交通法令順守、無事故・無違反の運行を達成することを目的とした警視庁主催の「2024年度セーフティドライブ・コンテスト」が行われました。実施期間中の無事故・無違反を達成した事業者の中で、特に優秀な成績を収めたとして、帝都自動車交通の日本橋営業所・銀座営業所・竹橋営業所・神田営業所・本社管理部門が選出されました。神田営業所は5年連続の表彰となります。

テクノロジーの活用

京成グループでは、テクノロジーの進歩に伴い、テクノロジーの活用を通じて、お客様・事業エリアのみなさまの安全・安心の確保に努めています。

鉄道

ICT機器の活用

2018年度に発生した塩害による輸送障害の対応において、情報共有に課題があったとの反省を踏まえ、情報共有をより迅速かつ確実に行うために、IP無線と大型タッチディスプレイを導入しています。また、大規模災害発生時等に通常の通信手段が使用不能となった場合の代替通信手段として衛星電話を導入しています。2024年度は異常時の連絡体制の強化のため、新京成電鉄においてもIP無線を配備しました。



「落とし物クラウド find」を導入

当社では、2025年4月より「落とし物クラウド find」((株) findが提供)を導入しました。当社の駅や列車内におけるお忘れ物がチャットでお問い合わせいただけるようになります。



このシステムは、落とし主の「連絡するだけでも大変」「探しても見つからない」という悩み・不安を、テクノロジーの力によって解決するサービスです。常に最先端の技術を取り入れ、さまざまなサービスと連携することでアップグレードし、利便性向上を図っています。

グループ

安全運転訓練車

京成バスでは、バス乗務員の運転技量や危険予知能力の向上を図るため、安全運転訓練車を導入しています。この車両では、運転中のアクセル開度、エンジン回転数、ギア位置、揺れ、燃料消費量、車間・前方・側方距離等の走行データと、運転者の視線の動きや右足の動きを集録するシステムを搭載しており、得られたデータを基に、乗務員一人ひとりの特徴に基づいた教育と訓練を行っています。

